

2015年

J A越前たけふ「水稻重点技術対策」

越前たけふ姫のブランド力を高めていくため、「重点技術対策」に取り組み、消費者から信頼される「高品質」で「良食味」な米づくりを実践しましょう。

目標

特別栽培省農薬（無化学肥料・農薬8割減）あきさかり 140ha

日本晴復活プロジェクト400ha（特裁200ha、慣行200ha）

特別栽培（化学肥料5割減・農薬5割減など）コシヒカリ 500ha

1. 新たなインセンティブ買入制度

■ J A越前たけふでは全国に先んじて水稻の特別栽培化を進めてきましたが、より安全・安心な省農薬（農薬8割減）栽培などを行い、消費地や卸業者に「環境にやさしい米づくり」を更にアピールすることで、越前たけふ姫のイメージアップを図りながら、少しでも「高く売れる米を作ろう」という生産者の努力が十分に報われるよう、新たな買入制度を実施することで、意欲ある生産者を支援してまいります。

■ 山間地・平坦地ともに品質が良く、比較的収量や食味が高い品種のあきさかりについて、省農薬の契約栽培を進めます。とくに、集落営農などの大規模経営体においては水稻作付の1割～2割の面積を目途に団地化しながら省農薬栽培を進め、所得の維持向上を目指しましょう。

この栽培については、完全有機栽培に近いものの、栽培期間中、本田において初中期一発除草剤を1回のみ使用できるため、除草や病虫害防除のポイントをしっかり抑えれば比較的容易に取り組むことができます。

① 病害防除

いもち病や紋枯れ病は窒素過多、過剰生育になると発生しやすくなるため、植え付けの段階から密植を避け、薄播き・細植えを徹底する。又、秋口から田んぼへケイ酸を補給し、深耕することで、生育中の茎葉を硬くし、稲の活力を高めることで病気に罹りにくくする。

② 除草対策

ノビエは代掻き後から伸び始め、2週間で2.5葉期になるため、代掻きから田植までの期間を空け過ぎないこと。又、田植後は稲の生育にあわせ、徐々に深水管理を徹底し、7月10日頃まで田面を露出させないようにする。（中干し延期）



深水管理

③ 斑点米防除

カメムシ類は畦畔のイネ科雑草が好物のため、水田周辺から侵入するカメムシ類の密度を低くするために、畦畔の草刈り及び本田内の除草をこまめに行う。

■ 水管理の目安



軽い田干し

2. 日本晴復活プロジェクト

- JA越前たけふでは米の卸売業者や外食産業への直接販売を行っており、それら実需者からは、すし米や掛け米として、現在では希少品種となりつつある「日本晴」の引合い要望が多くあることから、4年後の減反廃止を見越して、「日本晴」の生産販売を中長期的に強化する「日本晴復活プロジェクト」を実施し、激化する産地間競争の中での生き残りを目指しています。
- 白未熟粒による品質低下が著しい平坦地では、コシヒカリよりも比較的高温登熟に強い品種の日本晴の作付で作期の分散を行いつつ、27年産からは本格的に寿司好適用とした特別栽培での作付を進め、需要に応じた生産で所得の確保と経営の安定を図りましょう。

品種別作付三か年計画

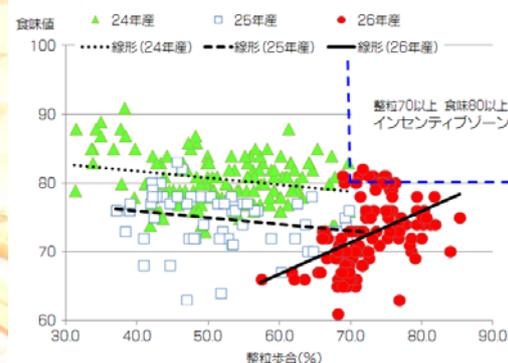
年度	早生		中生		晩生			その他うち
	ハナエチゼン	コシヒカリ	特別栽培 コシヒカリ	特別栽培 あきざかり	省農薬栽培 あきざかり	日本晴	特別栽培 日本晴	
現在	30%	40%	15%	3%	1%	8%	-	3%
平成27年	24%	30%	20%	1%	6%	8%	8%	3%
平成28年	20%	25%	20%	1%	7%	16%	8%	3%
平成29年	14%	22%	20%	1%	8%	24%	8%	3%



3. 特選「越前しきぶ姫」の生産に向けて

- JA越前たけふでは安全・安心ならびに高食味かつ高品質について具体的に表現するため、特別栽培コシヒカリを中心に穀粒判定器や食味分析計による整粒歩合や食味値の測定・紙袋などへの表示を行うとともに、生産者のモチベーション向上のため、分析指数に応じた米の買取制度を平成22年産より実施しており、27年産についても、買取制度とあわせて国の助成措置も継続されることから、取組の拡大をお願いします。
- 例年、インセンティブ買入の対象となる整粒歩合や食味値が基準値を超えるものは全体の5%~10%程度となっています。近年の傾向としては平坦地においては食味値が高い(基準値を超える)一方、整粒歩合が低く(基準値を下回る)なっています。山間地では真逆の傾向(整粒歩合は高いが、食味値が低い)となっているため、地帯別にそれらを補う作期や肥培管理で特選「越前しきぶ姫」の生産を目指しましょう。

平坦地



山間地

